



## 湾岸・アラビア半島地域ニュース

### サウジアラビア：中東和平への日本の役割 (4月10日付「リヤド」紙)

論説「誠実なる仲介者 日本」(アラビア語)、主筆者：タラアト・ワファ。

1. 日本は、中東から地理的に遠く離れているにもかかわらず、パレスチナ問題の解決を目指す国際的・地域的な努力を支える上で前向き且つ効果的な役割を果たしている。
2. このような前向きな日本の役割は、先般のリヤドでのアラブ連盟首脳会合の決定を日本が歓迎したことにも表れている。
3. 今月末に予定されている安倍首相の初のサウジアラビア訪問において、アラブ和平イニシアティブが安倍首相とアブドラ国王との間で議論される最も重要な議題となろう。
4. 日本は、パレスチナ問題の解決の為に、「平和と繁栄の回廊」と称する計画を採択している。又、パレスチナ問題をフォローする為の特使を任命している。日本政府は、地域の人々の間での信頼醸成が安定の鍵であること、特にパレスチナ人とイスラエル人との相互理解が繁栄につながること、又、パレスチナ人、イスラエル人、ヨルダン人との間で経済的な基盤を発展させていくことを通じ、2国家建設が実現可能であると考えている。
5. 先月、東京でパレスチナ、イスラエル、ヨルダン、日本の代表者からなる4者会合が開催され、「平和と繁栄の回廊」プロジェクトについて議論された。本会合は、パレスチナ問題を平和的に解決する為の意見交換に資するものであった。
6. 過去に戦禍に苦しんだ日本は、平和と繁栄の真の意味を理解している。又、日本は、パレスチナ問題を地域の不安定化をもたらす重要問題とみなしており、だからこそ、国際機関や関係国と協力しつつパレスチナ問題の平和的・公正且つ包括的解決に向けて努力をしているのである。
7. 日本の政策目標は純粋にパレスチナ問題解決への貢献であり、そこには政治的、経済的な利益は存在していない。この意味で日本の前向きな役割は、「誠実なる仲介者」と呼ぶに相応しいのである。
8. オルメルト・イスラエル政権がいかなる平和イニシアティブをも拒否し、占領地での軍事的・政治的スタンスを強化しようとする躍起になっている現状で、果たしてかかる日本の平和努力は実を結ぶのであろうか。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799